
黒の組織 V S コナン 最後の戦い

コリン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒の組織VSコナン

最後の戦い

【Nコード】

N1036H

【作者名】

コリン

【あらすじ】

黒の組織とコナンとの対決です。シェリーとコナンの正体がばれ

…

ブローグ

ジン あの方からの命令だ。工藤新一を殺せだと。

ウオッカ 兄貴、工藤新一はあの薬で殺したはずですが。

ジン ふん。工藤新一はシェリーをかくまっているらしい。

ウオッカ 誰からの情報ですか？

ジン バーボンだ。あの方は信頼しているが俺は信用してねえがな。

ウオッカ シェリーはどうするんですか？

ジン また薬を研究させろだと。

ウオッカ 俺らの目的はあの薬ですからな

ジン あまりいうな。どこかの鼠が聞いているかも知れねえからな。

ウオッカ 決行日は？

ジン 二週間後だ。

お前にお似合いのところで殺してやろう。愛する人の前でな。

第一話 正体がばれた！

ジヨディ

「クールキッド、哀ちゃん。実はね組織のメンバーの一人を捕まえたんだけど、組織で工藤新一を殺せと命令が来たらしいのよ。」

コナン 「なっ…」

ジヨディ 「それでこの少年を保護しようと思うの」

コナン 「へーそうなんだ。」

哀 「どうして私達に教えてくれるの？」

ジヨディ 「私たち工藤新一君のことを調べたの。トロピカルランドで行方不明になったらしいの。彼はまだトロピカルランドにいるらしいの。」

コナン 「灰原の質問に答えてねえよ。」

ジヨディ 「クールキッドいつものあなたらしくないわよ。」

コナン 「アハハそうかな。」

ジヨディ 「それに少し子供っぽいわよ。工藤君」

コナン 「アハハ…えっ」

コナン

「俺は江戸川コナンだよ。」

ジヨディ 「その日にあったこと調べてみたのよ。ジェットコースターの事件と迷ってた子供がいたこと。その子はダボダボの大人用の服を着ていたの。その子は逃げたんだって。」

哀 「何がしたいの！」

ジヨディ 「分かっているでしょ。江戸川コナンは工藤新一だということよ」

コナン 「アハハ何言っているの。新一兄ちゃんな分けないじゃん。」

ジヨディ 「もう証拠も見つけたわ。工藤新一の家にあった指紋とあなたの指紋を照合したの。」

コナン なに！

ジヨディ 「なにを慌てているの？クールキッド。100%照合したの。もう言い逃れはできないわクールキッド！」

指紋まで検出してたなんて迂闊だった。どうすれば言い逃れ出来る？
いったい俺はどうすればいいんだ。

哀 「あなたどうするき？」

コナン …

第二話 証人保護プログラム

コナン 「どうして俺のこと疑ったんですか？」

ジヨディ 「まだ子供なのにその推理力かしら。」

コナン 「もうばれたんですか…」

哀 「あなた本当のこと話す気？私のことは話さないでね。」

コナン 「ジヨディ先生。先生のいうとおり俺は工藤新一です。」

ジヨディ 「やっぱりそうだったのね。」

コナン 「やっぱりっていうことは今までの嘘だったのかよ。」
俺はすこし感情的になった。

ジヨディ 「On no。」

「今までの本当。」

「工藤新一が狙われているのね。」

コナン 「組織について他に分かったことないんですか？」

ジヨディ 「ないわ」

コナン 「そうですか」

ジヨディ 「ここからがほんだいだわあなたに証人保護プログラムを受けて欲しいの」

コナン 「えっ…」

ジヨディ 「あなたのためにも愛する人のためにFBIのためにも」

コナン 「だからって…」

ジヨディ 「確かに逃げてわいけないわ。でも愛する人を危険にさらしたくないと思わない？」

哀は少し頬を赤らめた

哀 「工藤君、帰りましょ、こんな事答える必要もないわ。そうでしょ？」

コナンはしかめっ面をしたまま何も答えなかった。

ジヨディ 「少し時間が掛かるみたいね。明日答えを聞かせてもらうわ。」

ジヨディは車に乗って

ジヨディ 「Gooddy・クールガイ、哀ちゃん」
そうして去っていった。

第三話俺は…

ガチャ

コナン 「ただいま。」

蘭 「お帰り、コナン君。」

俺はもう小学5年生になり蘭も大学3年生になった。

黒の組織を追い続け今だに手掛かりは見つかっていない。

蘭 「コナン君？どうしたの眉間に皺寄せて」

蘭は心配そうに俺を見ていた。

コナン 「何でもないよ。」

最近蘭は元気がない。

工藤新一として最近会ってないからだ。

こんなに蘭を悲しませるくらいならいつその事工藤新一の存在を消すか？

そうしたら俺は蘭を守れなくなる！

でも俺の正体を組織が知っている。

蘭が…

蘭を守るには俺が犠牲にならないといけないのか？

蘭、蘭、蘭…

心の中で何度もつぶやいた。

もうしかたない俺は…

コナンは急いで自分の部屋にいった。

唇をかみしめながら

泣いた。

こんな自分に対して…

蘭 「どうしたのコナン君？

いきなり自分の部屋にはいつて。ごはんたよ。」

コナンは涙をふくために眼鏡をとり手で拭いた。

コナン 「そっか。ちよっと待ってて。」

夕食は蘭とテレビをみながらたべた。

蘭の笑顔を見るたびに俺の胸はチクチクと痛んだ。

蘭 「コナン君。コナン君。今日のコナン君おかしいよ。なんかあった？」

コナン 「何でもないよ。」

精一杯、明るく言った。蘭 「そう？」

少し疑問を感じながらも蘭はひきさがった。

蘭、ごめんな。

心の中で言った。

第四話 工藤新一暗殺計画① 悲劇の始まり

小林先生

「江戸川コナン君が転校する事になりました。」

みんな

「えー！」

げんた

「何で教えてくれなかったんだよ」

コナン

「わりーな。げんた。」

あゆみ

「さびしいね」

光彦

「そうですね。」

く 帰り道く

あゆみ

「ねえねえ、コナン君のお別れパーティを兼ねて遊園地に行こうよ」

光彦

「それはいいですね。」

げんた

「コナンもちろんいいだろ。」

コナン

「あっああ。」

あゆみ

「哀ちゃんもいいよね。」

哀

「ええ。」

コナン

「おいお前は転校しないのか？」

哀

「誰かさんと違って臆病じゃないもの」

コナンの胸にその言葉は響く。

コナン

「転校したくてしてるわけじゃねえっーの！」

哀

「じゃあ迎え撃てばいいじゃない。」

哀の言葉はズキズキとささる。

コナン

「正体がばれている以上あそこにはいらねえ。」

げんた

「お前から聞いてるか！」コナン

「はっ？」

あゆみ

「だからあさってトロピカルランドにいこうって言ってるの。」

コナン

「ああ分かった。」

みんなは知らなかった。

遊園地であんな悲劇が起ころうとは…

蘭

「コナン君、あさって園子の家でお別れパーティしようと思うけどどう？」

コナン

「ごめん、蘭姉ちゃん。もうげんた達と約束しているんだ。」

蘭

「そっか、じゃあ私も行っている？ほら最後だから。」

この時、気付くべきだった。蘭の様子が違う事を…

コナン

「いいよ。げんたたちにいっとくよ」

蘭

「ありがとう。」

別れだから少し様子が違うと思った。

この事が運命を決めるとはだれも思っていなかった。

第五話 工藤新一 暗殺計画 2 ～ 蘭 ～

コナンが学校にいるころ 蘭は

蘭

「新一の事何年待ったんだろう。」

自然につぶやいた。

プルプルプル

電話がなった。

小さな画面に工藤新一とある。

顔が自然にほころんだ。

蘭

「もしもし、新一」

新一

「よー蘭」

新一の声は暗かった。

蘭

「あのね新一、園子がね……」

新一

「俺の話先でいいか？」

蘭

「嫌な話なんて聞きたくないよ」

弱々しくか細かった。

新一

「わりー蘭…」

蘭

「何で謝るの。謝なくていいよ。私待ってるから。」

新一

「蘭、もう待たなくていいから。悪い、蘭。」

電話は一方的に切られた。

聞こえるのは空しい機械の音。

蘭

「新一、新一、新一」
目に涙がたまる。

ポタポタと落ちる。

蘭

「ひどいよ、新一。」
そんな蘭の後ろに人がいた。

ハンカチをもち蘭にかがせた。

（眠い…新一助けて）

カクッ

蘭は眠りに落ちた。

マール

「楽勝だったな。」

ベルモット

「油断は禁物よ。」

そういいながら変装した。

マール

「この女フラれたみたいですよ。」

ベルモット

「そうね…」

マール

「たのんだ。ベルモット、目を赤くするんだな。」

ベルモット

「分かっているわ」

マールは蘭を紐を巻きつける。蘭を担ぎ窓から出た。

ベルモット

「私の変装を見破れるかしら。クールガイ。」

蘭

「うつーん」

目が覚めると口はガムテープが貼られ手足は縛れていた。
マール

「ふん、起きたか」

体格のよい男が目の前にいた。

蘭はその男をにらんだ。

マール

「こえー」

からかっていた。

マール

「なかなかいい女じゃねえか。」

蘭は必至に紐をとろうとした。

（怖い、助けて！）

マールは蘭の服に触った。

ジン

「それ以上やめろ。」

マール

「ジン」

ジン

「後でこの女が死んだらやるんだな。」

マール

「ふん」

ジン

「ベルモットから連絡だ。あさってトロピカルランドにいくらしい。」

マール

「で指令は？」

ジン

「ウオッカと一緒にトロピカルランドへいけ周りのやつらは殺せ。シェリーとベルモットと工藤新一はここへ連れてけ。」

マール

「了解」

（助けて新一）

新一に心の中で助けを呼んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1036h/>

黒の組織VSコナン 最後の戦い

2010年10月11日19時46分発行